

<インドネシア・リサーチ・レポート>

インドネシア中銀、1か月で3回連続の利上げ（5.75%へ）

2026年6月18日、インドネシア中央銀行（BI）は政策金利（7日ものリバースレポ金利）を0.25%引き上げ、5.75%に改定すると発表した。今回の利上げは、1か月足らずの間に3回連続で実施された。BIのペリー・ワルジヨ総裁は、ルピア相場の安定化およびインフレ期待（2026年の目標レンジ：1.5～3.5%）を抑制するための利上げであると説明した。ルピア相場は、過去最安値となる1米ドル＝18,190ルピアを6月8日に記録した後、翌日の臨時会合での利上げ決定でやや持ち直したが、1年前からの騰落率でみると、ルピアは対米ドルで依然として約8%強下落した状態にある。

2025年を通じて、BIは景気下支えに向けて金融緩和策を維持し、5回連続で利下げ（合計125bps）を実施、政策金利を6.00%から4.75%へと引き下げた。これは2022年以来の低水準であった。その後、2025年10月から2026年4月にかけて5回連続で金利を据え置いたものの、2026年2月下旬に緊迫化した中東情勢を背景にルピアが急落したことを受け、2026年5月以降は一転して利上げサイクルへと舵を切っている。

時点	決定	BI-Rate	注記
2025年9月	0.25%利下げ	4.75%	2025年における5回目の利下げで、2022年以来の最低水準に引き下げ
2025年10月 - 2026年4月	据え置き (5回連続)	4.75%	世界的な不確実性が高まる中、為替の安定を優先し緩和を一時停止
2026年2月28日	—	—	米国・イスラエルとイラン間の戦争が勃発し、ルピアが急落し始める
2026年3月17日	据え置き	4.75%	インフレ率が4.76%（2月）へ急上昇、2023年3月以来の高水準
2026年5月20日	0.5%利上げ	5.25%	2024年以来初の利上げ、市場予想（0.25%）を上回る異例の利上げ幅
2026年6月9日	0.25%利上げ (臨時)	5.50%	ルピアが過去最安値の1米ドル＝18,190ルピアを記録したことを受け、臨時会合での決定
2026年6月18日	0.25%利上げ	5.75%	1か月で3回連続の利上げ、3回の累計引き上げ幅は1.0%

利上げはルピア建て資産の魅力を高め、為替相場にとって一定の下支えとなる一方、その効果は中東情勢や米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策動向にも左右される。2026年4月末時点の外貨準備高は1,462億米ドル（輸入額の約5.8か月分）と、国際的に安全とされる基準を上回っている。インドネシアは2004年以降石油・ガスの純輸入国となっているため、エネルギー価格上昇の影響を受ける構造にあり、BIでは2026年の経常収支赤字がGDP比0.5～1.3%レンジという予測を据え置いている。

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。 **1**